No.163　　1990年9月1日　発行

HCTC
Since.5.1972

フジショット
東村山市市民テニスクラブ協議会機関紙

コート取り当番担当クラブ		
9月	10月分のコート	恩多B
10月	11月分のコート	青葉B
11月	12月分のコート	恩多D

発行責任者　柳　利夫
住所　東村山市萩山町5-6-26 301号
編集責任者　黒岩　俊雄
☎ 0423（95）4336

第6回・運営委員会報告

東村山市スポーツセンター
―― 8月12日　AM:10.00～11.30 ――

① 夏期合宿への練習ボールの貸出について
たまたま3クラブが同時に合宿実施することになっていますが、初級・初心者並びにジュニアの練習には差し支えないため貸し出すことに致しました。

② 柏崎戦について
公式戦は、8勝11敗で負けてしまいました。一般の参加としては市民テからは、『藤岡・田中・浅見・工藤・酒井』の5名の方々が参加していただきました。
市民テから1万円程度の補助をおこないます。（予算に計上済）―― どうも御苦労さまでした。――

③ 硬庭連及び運営委員会より
秋期市民スポーツ大会の開会式への御出席を！！
☆日　時　・9月2日(日) AM 8:30 集合
9:00 開会式
☆場　所　・運動公園(恩多) SL の前
雨天の場合はスポーツセンターのロビーの前に集合願います。

④ 技術部より
秋の公式戦中の練習コートの確保については、2回程度場所を確保し、練習していきたいと思います。
なお、確保出来ましたら久米川コート等でお知らせ致します。

⑤ 財政部
収入・支出とも計画的になされており、特に問題はありませんでした。

⑥ 広報部　――☆★お詫びと訂正☆★――
前号で、対柏崎戦の『月』及び秋期大会の予備日の『月』を間違えてしまいました。大変申し訳ありませんでした。今後は発行前に再度チェックするなどして、誤りの無いように致します。

⑦ コート取り
早朝・ナイターのコート取りが、この間何回か確保出来ていない点については、会員の皆様の努力により、今後はこのような失敗のないようきちんと確保するように努力致します。

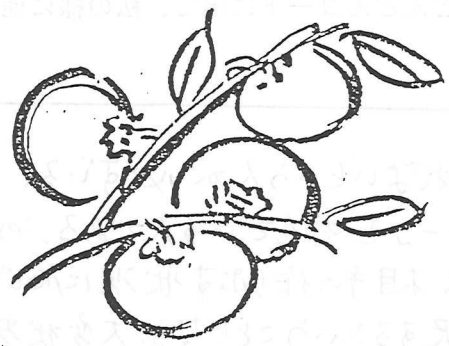
⑧ コート整備について
雨の後などでコートを整備すれば
使用可能な場合の処置
1) スポーツセンターの窓口で使用許可を確認するとともに
2) 整備にあたっては、『市民テ』において5面とも全部整備する――中心的役割を担う
3) その際、一般市民のコート利用者の方に対しては、整備への協力を要請し、一緒に行うようにする。
※ コート整備は、会員相互が協力し・率先して行えば早く済みますし、早くテニスが出来ることになります
コート整備は、本来なら「市」の管理者が実施すべき事柄ではありますが、「市」が業者に外注して行う本格的なコート整備は別として、このような日常的なコート整備には、『市民テ』が積極的に行い一般の市民とも互いに仲良くし、トラブルをおこさないという長年の伝統を、今後とも守り・発展させていきましょう。＊＊＊
［広　報　部］

§＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊§

秋期市民大会の日程・再掲

種目	9/9	9/15	9/16	9/23	9/24	9/30	記
壮年 女W:B 女W:A	○						
男W:B		○					
男W:A			○				
男S:B				○			
壮年 女S:B 女S:A					○		
男S:A						○	

☆★　予備日　10月7、14、21日　　W: ダブルス
集合時間を守りましょう。　　S: シングルス
☆★　市民テの皆さんの大奮闘を期待します。



技術部より
定期練習ありますJSSのコート確保済.
9月9日 } 1時～4時　3面
9月23日
9月15日　9時～12時　3面

住所変更のお知らせ

	頁	氏名	住所	電話
新	21	吉田忠雄	東久留米市小山4-2-33	0424-74-4850
新	29	高橋良男	入間市豊岡5-3-33 アーデン408	0429-65-6664

・★・名簿の訂正をお願い致します

今月のフジショップ
による用具指導日は、久米川コートで
9月16日　10時　より

私とテニス

青葉クラブ　上原正人

市民テに入会して早8か月が経ちました。そんなある日、青木さんから、「上原さん、ガッドの原稿を頼むよ。新入会員の仕事だから」とこの原稿を頼まれました。文章を書いたことの無い私ですが、名前を覚えられた喜びで一つ返事で引き受けてしまいました。

私のテニスは、社会人になってから、1年に3－4回友人とやる程度でしたが、東村山に越してきてから始めたテニスバットで、テニスゲームの楽しさを覚えてからと言うもの、毎週金曜、日曜、妻子がいるのも忘れて、テニスバットに打ち込んできました。しかしながら、”バックハンドがどうしても打てない。”そこで、基本的な打ち方などを習うためにテニススクールに通うようになりました。スクールの回を重ねるに連れてテニスの技術より、むしろ、テニスの楽しさを知ってしまいました。

約1年スクールに通いましたが、ある日、市報で市民テの募集を知り、早速入会しました。入会しての第一印象は、会費が安く、やる気になれば休日1日中でも出来る。初心者にも優しく指導してくれる。こんなクラブは他にあるだろうか、と思いました。

入会して半年経ち、この第一印象は間違っていませんでしたが、これは私の様な図々しい人間が思う事かもしれません。自分の下手なのも省みず、上手な人の中に入り、足を引張り、ゲームの中で打ち方やポジションを教えてもらう。こんな私の為に調子を崩しながらも、いつも暖かく受け入れてくれる会員の皆様、本当に感謝してます。

此れからも、いろいろと御迷惑をおかけすると思いますが、宜しく御指導お願い致します。

最後に、新入会員の皆さん、どんどんコートに出て、私の様に他人の足を引っ張りながら自分の腕を磨きましょう！

1つ多く勝つ

武谷直也

編集長は勝手なものである。「秋の市民大会も近いことだし、どうしたら勝てるかを記事にしてくれないかなあ」と運営委員会が終ってほっとしているところへ、いともたやすくつぶやくのである。こちらも何の気なしに「何とかしよう」などと、記事不足に同情して、引き受けたばっかりに猛暑の中パニックに陥っている。あっ何と、この平常心を失った時点で、勝利の女神は彼方へと去ってしまうのである。ようし冷静さを取り戻して戦うぞ（原稿用紙と）

勝つために自分を良く知り、相手を良く知る事は勝負の世界では常識である。しかしこれが難しいのも常識である。今回は相手はどうでも良い。自分を良く知った戦い方について考えて見ようと思う。

自分を知るといっても本来は性格や体力等も知らねばならないが、ここではテニスの戦術だけに限りたいと思う。従って自分を知るという事は自分のテニスの技術はどこまで達成しているのかという事を知る事になる。それがわかれば、その技術を最高に発揮する様に試合を組み立てるのである。

グランドストロークのフォアーハンドは自信があるが、バックハンドは苦手とする。その場合は、必死になってフォアーに回り込むことに集中すればどうか。強打やコースの打ち分けは自信がないがとにかく打ち返せる技術力があれば、ひたすらコート内に入れて持久戦に持っていったらどうか。

ボレーやスマッシュはまだ自信がない。しかしグランドストロークなら自信がある。こんな時に相手のボールが短かく本来ならその球を打った後ネットに前進すべきところだが、できるだけ深く返球して、ベースラインにもどりグランドストローク戦に持ち込んではどうか。ダブルスなら、そんな自分がいつもベースラインで戦える様に戦術を組み立てはどうか。無理にサーブやリターンの後ネットにつめる必要はない。（左に続く）

こんな戦術には耐えられないという人が必ずいる。世間が「オールラウンドプレーヤー」と呼んでいる人である。このタイプは自分だけではなく相手の作り出す状況に応じて戦術を変え、ストロークを選択するということになる。大変状況が複雑になり集中力に欠けるきらいがある。ミスが誘発され易い。これが悪いというのではない。それだけの技術と試合慣れがあれば。

前者の「我が道」派はその点戦術が単純であるので負けてもその原因解明が単純である。従って、次への勝利に向けての準備もやり易い。「我が道」派は草テニスでトロフィーを多くかせぐ傾向にあり、「オールラウンド」派はより高度の大会で賞品をかせぐ様である。さあどちらを選ぶか皆さんが判断する事である。一つでも多く勝って一歩前進したいものである。

編集後記

編集長殿 遅くなり申し訳ございません。これで当分コートには入れないのでは？　M